

写真をめぐって ― 光の軌跡、社会の痕跡

と き：2月2日～3月28日

全5回、いずれも昼2時～4時

ところ：公民館3階 講座室

定 員：25名（申込先着順）

5回連続で参加できる方を優先します

申込先：1月14日（火）朝9時～

公民館 ☎ 572-5141

◆第1回：2月2日（日）

「東京オリンピックと写真・芸術と記録の深淵に」

井上 絵美子（言語社会研究科博士課程）

◆第2回：2月16日（日）

「揺れるまなざし・都市と写真について」

松澤 優（言語社会研究科修士課程）

◆第3回：3月1日（日）

「写真と時間をめぐる幾つかのこと」

仲宗根 香織（写真家）

◆第4回：3月14日（土）

「写真家が書くこと」

川崎 祐（写真家、言語社会研究科卒）

◆第5回：3月28日（土）

「写真と絵画の間に 接近、露呈、腐食」

根間 智子（美術家・写真家）

全5回のナビゲーター：

井上 間従文（言語社会研究科准教授）

写真は

19世紀初頭に発明されて以来、
時に社会や個人の記録であり、また時に
写真家個人の作品でありながらも、実は
そのいずれにも抵抗を示す独特で奇妙な
媒体として発展して来ました。

光の軌跡をさざ波のようにたたえた写真は、
その波紋を近現代の 政治と社会、都市、絵画や文学、
さらには歴史や時間の概念に幾重にも及ぼして
来たとと言えます。

今回の講座では、一橋大・言語社会研究科の2名の若手研究者と、
研究科卒業生を含む3名の若手写真家・美術家がそれぞれの視点から
「写真」をめぐる多様な思考と実践をみなさんに紹介します。

写真家本人の作品を含む数多くの写真や映像も公開します。
受講者の皆さんとの対話時間も含む、双方向型の講座となります。